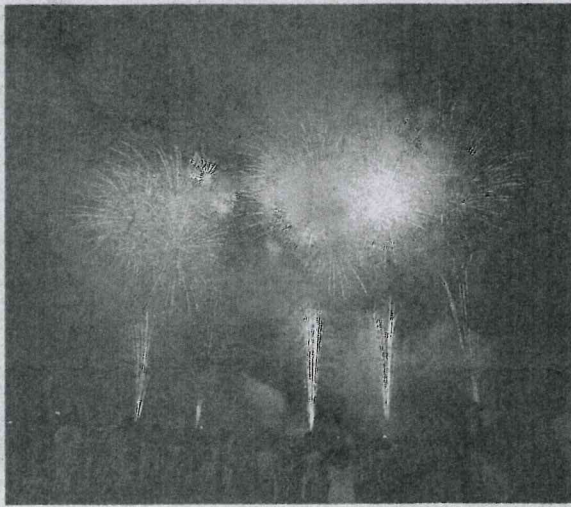




7基の出会いみこしと約1200人の担ぎ手で熱気に包まれた延岡市の中央通交差点一帯(27日)

おかのまつり まちを包んだ熱気と歓声 ファイナーレは大パノラマ花火

延岡市の夏の風物詩「第43回まつりのべおか」が27、28日に行われ、市街地は多くの市民の熱気と歓声に包まれた。
(高橋忠司実行委員長)



大パノラマ花火が夜空を彩った「第43回まつりのべおか花火大会」(28日、延岡市大貫町の大瀬川左岸河川敷から撮影)

今年、第40回から昨年の第42回まで2週にわたって実施してきた日程を以前の2日間連続に戻した。天候に恵まれ、初日は太鼓競演会、出会いみこし、総踊りなどで盛り上がった。2日目は花火大会が開かれ、7千発の花火が夜空を彩った。また、「まつりの担い手も観客も双方に楽しんでもらいたい」と参加型の新たな取り組みに挑戦。子どもみこしの担ぎ手を市内の全小学生を対象に

募ったところ、今年は昨年の倍に当たる約140人が参加し活気付いた。花火大会では、今年創立130周年を迎える延岡小学校の子どもたちが出資した記念花火が打ち上げられたほか、打ち上げ地点を横方向に延長したことで大パノラマの花火が実現し、ファイナーレを飾った。
(6、7面に写真特集)